

勝瑞発掘だより

号外

2006.11

勝瑞城館跡」に国史跡追加指定の答申出る！



11月17日、国の文化審議会は、勝瑞城館跡」の東側に隣接する8,800㎡の土地について、国史跡に追加指定するよう、伊吹文部科学大臣に答申しました。

追加指定を受けると、既に国史跡指定を受けている勝瑞城跡8,600㎡、勝瑞館跡33,200㎡をあわせて、50,600㎡が国史跡に指定されることになります。

この区域では、発掘庭園としては国内最大級の池庭や、主殿と考えられる大規模な礎石建物跡が見つかっていて、勝瑞館跡の中心的施設があることがわかっています。

先に国史跡指定を受けた区域については、平成16年度末までに公有化されています。今回、追加指定を受ける区域については、現在は藍住町土地開発公社の所有ですが、今後、公有化をめざすことになります。

●国指定史跡

遺跡の中で、我が国にとって歴史上・学術上の価値が高いと評価されたものが、国の「史跡」として指定され、保護の対象となります。

見つかった主な遺構

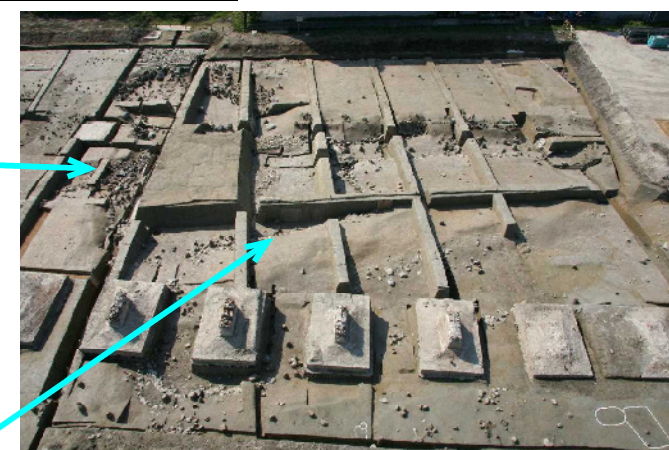
国内最大級の池庭



洲浜(すはま)護岸



石積み護岸



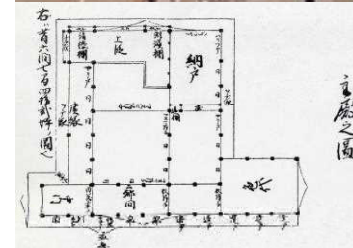
池は東西40m以上、南北30mの大規模なもので、ひらがなの「つ」の字のような形をしています。
緩やかな勾配の素掘りの岸が多く用いられていますが、部分的に石積み護岸や洲浜護岸も見られます。
たくさんの小さな石を敷き詰めた洲浜護岸の向こうには、斜めに立てられた青石が見えます。

主殿跡？大規模な礎石建物跡



池の北側約18mの地点で見つかりました。16世紀後半のものと考えられ、規模は東西八間(約16m)以上、南北六間半(約13m)です。柱間は一間＝六尺五寸二分で約197cmです。

全体の間取り等を明らかではありませんが、残っている礎石の並びやその規模は、17世紀初めに完成した大工の木割書である『匠明』に記載された「昔六間七間主殿」とほぼ一致します。



「昔六間七間主殿之図」(匠明)



京都系かわらけの焼成窯

礎石建物跡の一角には京都系かわらけの焼成窯が作られていて、その灰原が礎石の上まで覆っていました。つまり、勝瑞時代の最終段階には、この建物はすでに廃れていたということになります。池庭についても、恐らくこの建物の廃絶と共に廃れてしまったものと考えています。

編集・発行・問い合わせ

藍住町教育委員会 社会教育課 勝瑞発掘現場事務所

TEL・FAX 088)641-3466

公式ホームページURL <http://www15.ocn.ne.jp/~shouzu/>

E-mail syugomachishouzu@air.ocn.ne.jp